～学校教育目標～
一人一人の子どもに，平和な未来を築くための「生きる力（学ぶ力）」を育てる教育を実現する

いたわり　はげます　平和な学校

しろやま大すき

長崎市立城山小学校　学校だより
第２２号　令和４年１１月８日(火)
校長　　武末　弘之
本校ホームページ　https://www.nagasaki-city.ed.jp/shiroyama-e/

「危機に直面する子どもたち」　～今こそ私たちの出番～」（その５―②　最終回）

学校だより第 10 号から紹介してきた浦川先生の講話の紹介も，今日が最後となります。

⑶　良好な親子関係

子どもは喜び・悲しみ・怒り・寂しさ等の感情をもって生きている。一方，親は子どもが自分を満足させるときは歓迎するが，悲しみや怒りなどネガティブな感情に対しては「泣くな」と否定や無視・叱責をしてしまう。すると子どもは，その感情を我慢し，押さえなければならなくなる。

感情は，言葉や態度に対して親に受け入れられてもらうことで消化されていくが，それがうまくいかなくなったら未消化のまま残ってしまい，子どもの心身に不調が生じる。その不調は，強い不安やイライラ，キレやすい，落ち込みやすい等の形で現れてくる。子どものネガティブな感情を「悲しかったね」「怖かったね」と声をかけ，子どもの感情をあるがままに受け入れてやるだけで，子どもは安心する。

学校であった不快感に親が共感できるようになったとき，親子の関係は回復していく。このように，日常的に交わされる家族内でのコミュニケーションや団らんがいかに大事かということであり，子どもの心の安全基地をつくってやることこそが急務である。

【愛着に関する結び】（Bowlby の「愛着理論」）

子どもにとっての母親は「安全基地」であり，母親という安全基地があるからこそ，子どもは主体的に活動でき，また傷つけば安全基地（母親）に戻ることができる。つまり，親に「十分に甘えることができ」，親と「信頼関係を結べた」子どもしか，主体性は身につかない。

「誰にも甘えられず」，「誰も頼る人（大人）がいない」子どもは，非常に不安定な情緒傾向を示し，主体性が身につくどころか他者への依存性が高まる。親に「守られている」という感覚を持ち続けることこそ重要である。

これまでの紹介で，「乳幼児期」の親の関わりの重要性が多く出ていました。しかし，「もう小学生だから遅い」ということは決してありません。今からでも，しっかり愛情を注ぎ，抱きしめてやってください。

子どもは，小学生～中学生～高校生…と，大きくなっていくにつれて生きていく世界が広くなり，だんだんと「親離れ」していくものだと思います。我が子がそばにいる期間は限られているわけです。せめて，その間はよ～～く子どもを見て，できる限りの愛情を注ぎこんでいきたいものです。

愛情の注ぎ方は，人によっていろいろあると思います。ただ，子どもの望むように，したいように何でも受け入れていくことは違うはずです。失敗や我慢をしながら壁を乗り越えていく経験を積ませることも大切です。（と，自戒の念も込めて書いています）

明日は「長崎市小学校音楽会」

昨年度，一昨年度と新型コロナウイルス感染症拡大防止のために開催できなかった音楽会が，今日から３日間（８日～10 日），ブリックホールにて開催されます。

本校からは，４年生が明日の午後出演します。１組が「情熱大陸」，２組が「エンドクレジット～ジュラシックパークより～」の合奏を披露します。どちらも，とても素敵な曲で，子どもたちも自信をもって演奏しています。

今年度は，感染対策のために無観客開催となります。保護者の皆様には，子どもたちに一声かけて送り出していただければ幸いです。

〔あはは運動〕「あいさつ･へんじ　げんきよく！」「はやね･はやおき･あさごはん！」「はきものそろえ　いいきもち！」